



# 紅白

白地の地肌に赤い模様があるもの。  
赤い模様の形状によって2段・3段・  
稲妻・大模様・小模様などと呼ぶ。



# 大正三色

紅白に比較的まとまった墨斑紋が、  
点散するもの。大きな墨のタイプと、  
小さな墨のタイプがある。



# 昭和三色

紅白に筆で描いたようなタッチの黒  
斑紋を有するもの。昭和時代になって  
作り出された。



写りもの



山吹黄金



プラチナ



藍衣



浅黄



銀鱗紅白



五色



丹頂

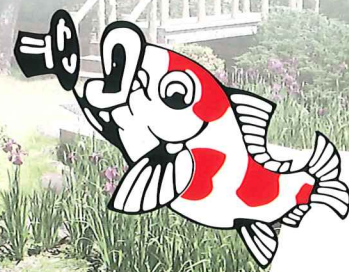
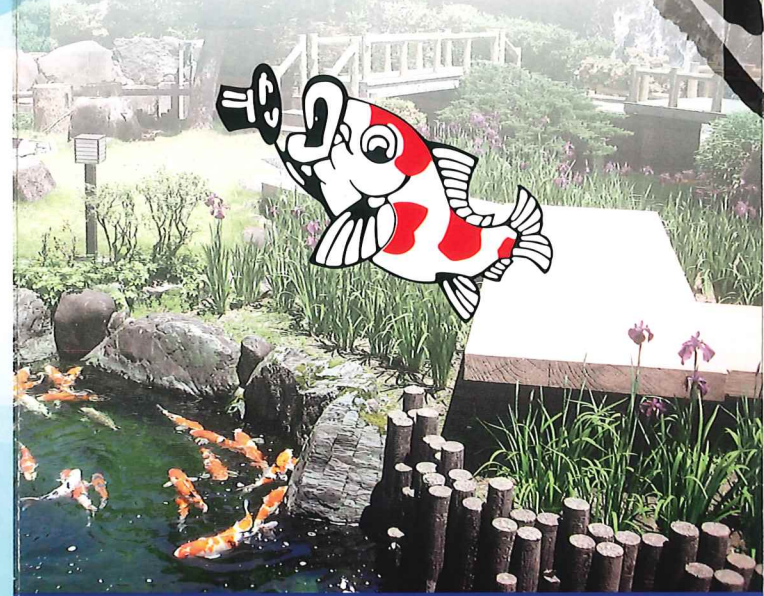


孔雀

# 錦鯉の里



錦鯉発祥の地 新潟県小千谷市



錦鯉の里 TEL 0258-83-2233

〒947-0028 新潟県小千谷市城内1-8-22

E-mail nishikigoi@ojiyasunplaza.jp

URL <http://www.nishikigoinosato.jp/>



【開館時間】9:00～17:00

【休館日】1月1日～1月3日、12月29日～12月31日

※施設、飼育の都合により臨時に休館する場合があります。その際は、ホームページ等でお知らせいたします。

【入館料金】

区分	個人	団体(20名以上)
大人	520円	410円
小・中学生	310円	260円
未就学児	無	料



【高速道路・小千谷IC利用】

練馬から関越自動車道・・・約2時間30分

高崎から関越自動車道・・・約1時間30分

富山から北陸自動車道・・・約2時間

新潟から北陸自動車道・・・約50分

上越から北陸自動車道・・・約40分

## 記念スタンプ





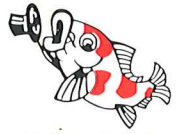
# 「錦鯉」とは

「錦鯉」とは、色や斑紋があり観賞用に飼育している鯉の総称です。「錦鯉」は、平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震からの復興の象徴として「小千谷市の魚」に制定され、また、新潟県のシンボルとして「県の鑑賞魚」にも指定されています。



# 錦鯉の始まり

錦鯉が初めて出現したのは、19世紀前半の江戸時代、文化・文政の頃と言われています。新潟県の二十村郷（現在の小千谷市、長岡市の一部）で食用として飼われていた鯉に突然変異で色のついた変わり鯉が現われたのが最初です。それから改良が続けられ現在の美しい錦鯉へと移り変わりました。



# 錦鯉の観賞

錦鯉の美しさの基準は、体形・色彩・斑紋の3つが基本になります。背筋が真っ直ぐでボリュームがあり均衡のとれた体形。鮮明で深みのある色彩。左右のバランスがとれた斑紋。これらを総合的に満たし、品位があるほど美しいとされます。

## 観賞棟

観賞池では、小千谷市で生まれ育った大きな錦鯉が大切に飼育管理されており、錦鯉の原産地ならではの優秀鯉20品種100尾余りが豪快な泳ぎをみせてくれます。



## 日本庭園



庭園は4つの池と2つの滝で構成されており、4月中旬から11月までオーナーさんの鯉が泳ぎ、季節の花とともにその華麗さは、しばし時を忘れさせてくれます。



## 資料展示室

資料展示室では、錦鯉の歴史、品種、飼育方法等が日本語・英語・中国語で説明されており、錦鯉の飼育や品評会の様子をビデオで(3ヶ国語)ご覧いただけます。また、錦鯉の稚魚なども水槽や写真で紹介されています。



## 館内図



## 周辺情報

隣接しております小千谷市総合産業会館「サンプラザ」には、小千谷市の物産販売、手織り体験、食事施設等があります。(団体昼食も承ります。)

